

第87回 JCOA 近畿ブロック会議 資料

日時： 令和8年4月11日(土)16:00～18:00
場所： ハービス PLAZA 5階(8,9,10号)会議室
大阪市北区梅田 2-5-25 TEL06-6343-7350

当番世話人:大阪府臨床整形外科医会 会長 貴島浩二

会議出席者(敬称略、順不同)(52名)

滋賀

麻生伸一、小林昌明、布留守敏、由良茂人

京都

原浩史、花房信哉、山口佳彦、太田光彦、白須幹啓、古川泰三、立入久和、人見智

和歌山

山東秀樹、加藤健、栗原良次

兵庫

辻本和雄、葛原啓、青木康夫、山下仁司、大谷卓弘、西川哲夫、
武富雅則、三輪雅彦、前野耕一郎、飯尾純

奈良

藤井載樹、岡橋達晃、長谷隆生、原文彦、村井聰

大阪

貴島浩二、木下裕介、史賢林、神藤佳孝、中野晋吾、長谷川利雄、堀口泰輔、
宮崎浩、宮田重樹、山口眞一、黒田晃司、吉村弘治

【開会の辞】

【JCOA 理事会報告】

令和7年度第5回 JCOA 理事会

ページ 資料

(大阪/神藤佳孝先生) 3

1

【各委員会報告】

① JCOA Q&A ハンドブック交通事故診療 編集会議	(兵庫/山下仁司先生)	3	
② 令和7年度第3回自賠労災委員会	(兵庫/山下仁司先生)	3	
③ 令和7年度JCOAスポーツ委員会	(滋賀/小林昌明先生)	5	
④ 第39回JCOA学会協賛状況、収支予算案について	(兵庫/辻本和雄先生)	6	2.3
⑤ 令和7年度第6回学術委員会	(大阪/堀口泰輔先生)	6	
⑥ 令和7年度第7回学術委員会	(大阪/堀口泰輔先生)	7	
⑦ 令和8年度第1回合同プログラム委員会	(大阪/堀口泰輔先生)	8	
⑧ 令和8年度第1回学術委員会	(大阪/堀口泰輔先生)	8	
⑨ 令和7年度第5回医療システム委員会	(大阪/宮崎 浩先生)	8	
⑩ 令和7年度第2回IT戦略委員会	(大阪/白木隆士先生)	12	
⑪ 令和7年度第1回学会雑誌編集委員会	(大阪/山口眞一先生)	14	4-9
⑫ 令和7年度第2回学会雑誌編集委員会	(大阪/山口眞一先生)	14	
⑬ 日本臨床整形外科学会近畿ブロック 理事・監事・裁定委員予定者に関して	(大阪/神藤佳孝先生)	14	
⑭ 令和7年度社会保険等検討委員会	(大阪/神藤佳孝先生)	16	10
⑮ 第8回JCOA災害医療チーム研修会	(大阪/神藤佳孝先生)	16	11
⑯ SICOT2026京都参加依頼	(大阪/神藤佳孝先生)	16	12
⑰ 全国市民公開講座ポスター	(大阪/神藤佳孝先生)	16	13
⑱ 日本整形外科学会令和7年度第6回理事会	(大阪/神藤佳孝先生)	16	
⑲ 日本整形外科学会令和7年度第7回理事会	(大阪/神藤佳孝先生)	24	
⑳ 日本整形外科学会令和7年度第8回理事会	(大阪/神藤佳孝先生)	30	
㉑ 骨塩定量検査の算定要件の見直し	(大阪/神藤佳孝先生)	37	14-19
㉒ 末梢神経ラジオ波焼灼療法、対外衝撃波疼痛治療術	(大阪/神藤佳孝先生)	37	20-22
㉓ 令和7年度第3回学校保健員会	(大阪/貴島浩二先生)	37	

【各種報告事項】

【協議事項】

次回ブロック会議案内（京都府）

次々回ブロック会議日程について（滋賀県）

【閉会の辞】

【JCOA 理事会報告】

① 令和7年度第5回JCOA理事会

資料1

【各委員会報告】

① JCOA Q&Aハンドブック交通事故診療 編集会議

2/21 ひびき綜合法律事務所(東京)

出席者(8名) 松原、和田、山下、中村、相原、藤川(敬称略)
羽成弁護士、宇野編集長 欠席(2名)

第7版は今週春発刊予定 最終の編集確認

1. 編の校正と目次 実務編 応用編 基礎編とする
2. 追加された新原稿の確認と掲載箇所の検討 (電動キックボードの保険 等)
3. 修正されたQ&Aの検討 自賠優先と労災優先 一括払いで治療後の労災への変更依頼
自転車事故、自転車と歩行者の事故 自賠責診療報酬基準への改称 等
4. 執筆者一覧について
5. 推薦文(JCOA理事長、日医担当常任理事)
6. 監修の言葉、はしがき あとがき
7. 索引について(判例年月日検索を要検討)
8. その他 (新原稿について、PDF版の発刊について)

② 令和7年度第3回自賠労災委員会

日 時:令和8年3月6日(日)20:00~21:30

場 所:ウェブ会議

出席者:副理事長 松原三郎 担当理事 片山 元、鬼木泰成、舘 靖彦 委 員 長 中村克巳
副委員長 三平伸一 委 員 盛田哲郎、和田慎一、岩井 誠、篠田潤子、相原忠彦、川田英
人 アドバイザー 子田純夫、山下仁司、藤川謙二 欠席者:委 員 嶋崎直哉 (敬称略:出席
者 15名)

挨拶：松原三郎副理事長は、本日の委員会について、理事長諮問事項の答申案等、多くの決議事項があるので協議をお願いしたいと挨拶した。

理事会審議付帯事項：特になし。

委員会決議事項：

1. 令和6・7年度理事長諮問事項に対する答申案について 答申案について一部修正を加え、最終案は本委員会メーリングリスト上で協議し 決定することとした。
2. 第39回JCOA学術集会(兵庫)シンポジウムについて 発表内容や進行について、令和8年7月上旬にウェブ形式で協議し、決定することとした。
3. 会員からの質問への対応 会員からの行政書士に関わる質問に対する回答案について検討し、体裁を整えて 返答することとした。
4. 行政書士が交通事故医療に関与し、被害者請求を行う場合の問題点と対応について 会員にとってトラブルとなる可能性があるため、周知文書を作成する必要がある と決定した。内容について検討し、次の(1)から(4)を含めた文書を作成のうえ、会員向けメーリングリストで周知することとし、本委員会メーリングリストで協議のうえ 決定することとした。
 - (1)行政書士の業務内容及び司法書士との違いについて、患者へ情報提供する必要 があるため、会員にもその違いを理解していただく。
 - (2)自賠責への診断書及びレセプトは行政書士に直接送付せず、患者に交付する。診断書料及び診療費は自由診療とし、請求は患者に直接行い、行政書士への請 求は行わない。
 - (3)医業類似行為との並行受療は認めていないことを明確に伝える。複数の施術は適切な方向に進まないため、いずれか一方に限定する必要がある。
 - (4)健康保険診療を希望する場合は、健康保険での対応とする。

委員会報告事項：

1. 「基礎からわかる自動車保険の実務」の記載内容について 最近発刊された「公法)日弁連交通事故相談センター東京支部 保険制度研究部 会編著(創耕舎刊)」において、健保一括について「健保一括は健康保険法第74条、国民健康保険法第42条に反すると解すべきである」と記載されているとの報告が あった。本委員会でも、健保一括は法令違反となることを確認した。
2. 電動キックボード・モペットに関する解説について 近年、交通手段として普及している電動キックボード・モペットに関する法規及 び保険について、公法)日弁連交通事故相談センター東京支部が毎年刊行する、いわゆる「赤い本」に解説が掲載されていることが報告された。電動キックボード・モペットは、自賠法上は自動車と規定されるため、自賠責保 険の締結義務

があり、未加入の場合には政府補償事業の対象となり得る。また、任意保険ではバイク保険やファミリーバイク特約等に対応されることについて、知識を共有した。

③ 令和7年度 JCOA スポーツ委員会

日時:令和8年3月12日(木曜日) 様式:ウェブ会議

出席者 副理事長 河村英徳

担当理事 大塚和俊、小林昌明

委員長 岩間 徹

副委員長 長井 英

委員 遠藤 威、西川哲夫、大塚 豊、川北 剛、

アドバイザー 麻生伸一

欠席者 大沢亜紀

理事会審議付帯事項:特になし

審議事項

1. 理事長諮問事項について
2. 第39回 JCOA 学会 in 兵庫におけるスポーツ医懇談会について
以下の内容で開催することが決定した。

テーマ 『高齢者アスリートの治療とスポーツ復帰』

1) 教育研修講演 (60分)

座長:長井 英先生(JCOA スポーツ委員会副委員長)

演者:齋藤 充先生(東京慈恵会医科大学整形外科主任教授)

『高齢者スポーツと骨粗鬆症』(仮題)

2) シンポジウム(90分)

座長:麻生伸一先生(あそうクリニック理事長)

西川哲夫先生(西川整形外科リハビリクリニック院長)

① 腰痛の治療とスポーツ復帰について

演者:山崎良二先生(関西労災病院整形外科)

② 変形性股関節症の治療とスポーツ復帰について

演者:松下洋平先生(神奈川県リハビリテーション病院整形外科)

③ 変形性膝関節症の治療とスポーツ復帰について

演者:松下雄彦先生(明和病院整形外科)

3) ランチョンセミナー(60分)(久光製薬担当)

座長:岩間 徹先生(JCOA スポーツ委員会委員長)

演者：山崎哲也先生(横浜南共済病院スポーツ整形外科)

『高齢者投球障害の管理と治療』

3. リズムステップの研究について(岩間委員長)
4. 第40回JCOA学会 in 岩手について(遠藤委員)
5. 報告事項 各委員が活動報告し、意見交換を行った。

④ 第39回JCOA学会協賛状況、収支予算案について

資料 2.3

⑤ 令和7年度第6回学術委員会

日 時：令和7年11月5日～11月28日

場 所：電磁的方法による

出席者：理事長 長谷川利雄

副理事長 五味渕聡志

担当理事 片山 元、金藤直樹、館 靖彦

委員長 堀口泰輔

副委員長 石毛徳之

委 員 吉田昌明、松原孝夫、前野耕一郎、吉井一郎、鶴上 浩

アドバイザー 原田 昭

欠席者：なし

理事会審議付帯事項：

1. 令和8年度学術賞・学会功労賞・学術奨励賞の選考について

一般社団法人日本臨床整形外科学会表彰規程に基づき、次のとおり、各賞の選考を行ったので、理事会へ上程することとした。

(1) 学術賞

- ・ 井尻慎一郎会員（兵庫県）の推薦があった。
- ・ 本委員会内において、協議を行った結果、当該会員を学術賞候補として「推薦する」意見が多数であった。
- ・ 学術賞候補者として、井尻慎一郎会員（兵庫県）を推薦することとした。

(2) 学会功労賞

- ・ 本賞への推薦はなかったため、学術委員会として推薦する候補者を検討した。
- ・ 学会功労賞の採点が40点以上となる会員の中で、吉村光生会員（福井県）

の推薦があり、学会功労賞採点評価表にて採点を行った結果、66点であった。

- ・ 本委員会内において、協議を行った結果、当該会員を学会功労賞候補として「推薦する」意見が多数であった。
- ・ 学会功労賞候補者として、吉村光生会員（福井県）を推薦することとした。

(3) 学術奨励賞

- ・ 沖本信和会員（広島県）の推薦があった。
- ・ 本委員会内において、年齢が60歳以下で日臨整誌への投稿3編以上、JCOA学術集会における発表演題5題以上の候補者基準を確認し、協議を行った結果、当該会員を学術奨励賞候補として「推薦する」意見が多数であった。
- ・ 学術奨励賞候補者として、沖本信和会員（広島県）を推薦することとした。

委員会決議事項：

特になし。

委員会報告事項：

特になし。

⑥ 令和7年度第7回学術委員会

日 時：令和7年12月1日～12月9日

場 所：電磁的方法による

出席者：副理事長 五味渕聡志

担当理事 片山 元、金藤直樹、舘 靖彦

委 員 長 堀口泰輔

副委員長 石毛徳之

委 員 吉田昌明、松原孝夫、前野耕一郎、吉井一郎、鶴上 浩

アドバイザー 原田 昭

欠席者：なし

理事会審議付帯事項：

特になし。

委員会決議事項：

1. 第100回日整会学術総会シンポジウム案について

(1) 本委員会から、医療システム委員会、SLOC 連携委員会、学校保健委員会、自賠・労災委員会に対してシンポジウム案の提出を依頼したところ、次のとおり提案があった。

- ① 人生 100 年時代に元気な 100 歳になるための全世代ロコモ対策 (SLOC 連携委員会)
- ② 知っておくべき接骨院、あんま、鍼灸問題 Q&A ー日常診療での対処法 (医療システム委員会)
- ③ 交通事故診療・労災診療における後遺障害認定の留意点 (自賠・労災委員会)
- ④ 学校運動器検診の現状と今後の展望 (学校保健委員会)

(2) 本委員会内からの提案はなかった。

(3) 本委員会にて協議した結果、次の 2 題を JCOA から提案するシンポジウムとして回答することとした。

- ① 人生 100 年時代に元気な 100 歳になるための全世代ロコモ対策
- ② 交通事故診療・労災診療における後遺障害認定の留意点

⑦ 令和 8 年度第 1 回合同プログラム委員会

⑧ 令和 8 年度第 1 回学術委員会

⑨ 令和 7 年度第 5 回医療システム委員会

日 時: 令和 8 年 2 月 8 日 (日) 9:00~12:00

場 所: ビジョンセンター東京八重洲

出席者: 理事長 長谷川利雄

副理事長 松原三郎

担当理事 北村拓也、諫山智洋

委員長 吉田政史

副委員長 宮崎 浩、三輪雅彦

委員 村上俊也、鬼川 温、小林達也、名越 充、松本光司、佐藤直人

アドバイザー 前中孝文、小野直司、相原忠彦

欠席者: 副理事長 五味淵聡志、アドバイザー 藤野圭司、角南義文

【理事会審議付帯事項】

- (1) 小野直司アドバイザーが NHK 朝のニュース「子どもの首、肩に“異変”」に対し、NHK に JCOA 名で意見書を送付したが、送付した意見書に対する NHK からの回答がない事に対し、再度意見書を送付することについて、理事会に上程することとした。

(2) 小冊子「鍼灸院ってどんなところ？」について、北村拓也理事が坂東司朗顧問弁護士に参考資料を添付して法的検討を依頼しているが、返答後理事会に上程することとした。

【協議・検討事項】

1. 「医師のための保険診療基礎知識～医業類似行為 Q&A」改定について

- (1) 小野直司アドバイザーが改定案を提案し、以下のように決定した
 - A-1 医業類似行為の説明で「治療行為」の文言を「治療行為(施術)」に変更
 - Q-13「あ・は・き」施術所と医療機関(整形外科)の両方に通院できるのか?の文章を、Q-13 鍼灸施術所と医療機関(整形外科)の両方に通院できるのか?に変更
 - A-24に記載されている変形徒手矯正術の料金に関して、将来的な変更の可能性もあり、記載を削除することとした。
 - A-27の不適切事例の報告の数値を宮崎浩副委員長が最新のものと過去の事例を合わせた報告数に差し替えることとした。
- (2) 相原忠彦アドバイザーからの改定案に対し、以下のように決定した。
 - 追加された“A-4 つまり保険診療としての通常の医療を行うことが原則です。”は不採用とした。
 - 追加された“A-9 施術前の社名は白紙委任となり、不正請求の要因となります。”は採用としたが、もう少しマイルドな表現に変更することとした。
- (3) JOA 事務局より、記載内容の出典や根拠法令の明示を依頼されているが、それについては現在作成中であることが報告された。
- (4) 出典、根拠法令の明示、確認が済み次第、理事会に上程し、その後 JOA 広報・渉外委員会と協議し、JOA の顧問弁護士によるリーガルチェックが行われた後に改訂版が発行となる予定。

2. 理事長諮問事項について

- (1) 理事長諮問事項の答申作成について、各担当者に対する確認が行われ、以下のように決定した。
 - 厚労省の療養費検討委員会委員との連携 松本光司委員
 - 医業類似行為有害事象、事例を収集し社会へ啓発する方策の検討 宮崎浩副委員長
 - 代替医療、統合医療の研究、現象の把握と対策 鬼川温委員
 - あはきの受領委任払い導入後の影響の検討 三輪雅彦副委員長
 - 柔整師の卒後研修制度の影響と問題点の整理 小野直司アドバイザー
 - スクールトレーナー制度についての検討 名越充委員
- (2) 柔道整復師の卒後研修制度における保険医療機関での研修内容に関するアンケートを計画しているが、その送付の範囲を JCOA 会員施設に限定することとした。
- (3) 名越委員より、岡山県におけるスクールトレーナー制度の進行状況の報告と、学校現場に対するアンケート実施計画についての状況の報告が行われた

3. 第 39 回日本臨床整形外科学会学術集会シンポジウム企画

兵庫で行われる JCOA 学術集会のシンポジウムとして、第 100 回日整会学術集会シンポジウム企画として本委員会が提出し推薦に至らなかった「知っておくべき接骨院、あんま、鍼灸問題 Q&A - 日常診療での対処法」を、日整会広報渉外委員会からの演題を除く形で実施する予定とし、各シンポジストの発表内容について検討が行われ、以下のように決定した。

(1) シンポジウム名: 知っておくべき接骨院、あんま、鍼灸問題 Q&A—日常診療での対処法

座長: 北村拓也、三輪雅彦

演者:

- 1 接骨院、あんま、鍼灸の守備範囲
松本光司
- 2 あんま、鍼灸療養費用同意書に関する適切な判断と対応
名越 充
- 3 接骨院、あんま、鍼灸への同意書責任
吉田政史
- 4 接骨院、あんま、鍼灸による健康被害
宮崎浩
- 5 JCOA 医療システム委員会のこれまでの活動、実績報告
相原忠彦

(2) エコーハンズオンセミナー

- JCOA 学術集会で実施されるエコーハンズオンセミナーにおいて、セミナー前に行われるシンポジウムのシンポジストとして鍼灸師が予定されていたことが判明し、シンポジストから外れていただくことを要請したことが報告された。
- ハンズオンセミナーの参加者は医師のみとし、当初計画されていた PT は参加者から外すことを要請することとした。

4. 令和8年度医療システム委員会の日程

第 1 回 4 月 WEB

第 2 回 6～7 月 対面を検討

第 3 回 9 月 WEB

10～11 月 シンポ予演会 WEB

第 4 回 11 月 15 日 対面(品川プリンスホテル)

第 5 回 令和 9 年 2 月 14 日(日)(未定) 現地(合同委員会ハイブリッド)

【理事会・委員会報告事項】

1. 令和 7 年度第 4 回医療システム委員会議事録(令和 7 年 11 月 9 日)
宮崎浩副委員長は、資料に基づき報告した。

2. 令和7年度第5回理事会議事録(令和7年12月7日)

北村拓也担当理事は、資料に基づき報告した。

3. 令和7年度第2回JOA広報、渉外委員会要旨(9/11)

宮崎浩副委員長は、資料に基づき報告した。

4. 令和7年度第3回JOA広報、渉外委員会要旨(11/9)

宮崎浩副委員長は、資料に基づき報告した。

5. 令和7年度JCOAシンポジウム

(1) 吉田委員長は、シンポジウム開催の報告を行い、シンポジウム参加者が87名、シンポジウム後の情報交換会への参加者が31名であったことを報告した。

(2) 鬼川温委員は、アンケート結果について概ね好評であったことを報告した。

6. 第32回柔道整復療養費検討専門委員会(1/30)

松本光司委員が、次の事項について報告した。

(1) 令和4年度の柔整療養費は2747億円で減少、令和6年度の柔整施術所数は増加も伸び率は鈍化している。

(2) 柔整療養費の患者年齢分布は79～79歳が最も高く、傷病名の99%以上は捻挫、打撲である。

(3) 明細書の交付、患者毎に償還払いに変更できる事例について、柔整療養費の令和8年度改定の基本的な考え方を報告した。

(4) 柔整受療行動の調査、分析結果について～「部位転がし」が疑われる施術とは～

- 健康保険組合連合会が、2023年4月～2024年3月までの柔整療養費支給申請書62万件のデータに基づいて、部位転がしが疑われる受療行動について調査、分析した。
- 分析結果による施術の傾向は、負傷部位数は2部位が最も多く、受療月数は1か月が最も多い。1回の負傷につき平均2部位の施術が行われており、1つの部位の施術期間は30日以内が訳5割である。初検料算定は2回以内が8割を占める。

7. 第100回日整会学術総会シンポジウム企画

三輪雅彦副委員長が、不採用となったことを報告した。

8. NHK朝のニュース「子どもの首、肩に“異変”」

小野アドバイザーは、R7.11.7にNHK朝のニュースで放送された「子どもの首・肩に”異変”」の内容について、子どもの首肩の不調を柔道整復師が施術したことは医学的妥当性に疑問があり、法律にも抵触する恐れがあるので、NHK会長及び番組プロデューサーに対して意見書を作成したことを報告した。北村理事は、意見書の提出について理事会で、決議の省略の手続きが11/19-26にかけて行われ、修正意見なく成立し、NHKに送付された旨を報告した。委員会において、送付した意見書に対するNHKからの回答がない事に対し、再度意見書を送付することについて、理事会に上程することが決議された。(理事会審議付帯事項参照)

9. JCOAホームページ改定

吉田政史委員長は、JCOA ホームページ内の「柔道整復等」のページ内容の改訂が行われたことを報告し、その内容について、J-net で会員に通達したことを報告した。

10. 「ひじの故障防げ 小中学生球児 180 人に「野球ひじ」の検診」静岡市

(1) 吉田政史委員長は、R8.1.13 の朝日新聞に上記タイトルの記事が掲載され、内容として柔道整復師がエコーを用いて肘の異常の有無を確認したとの記載があったことを報告した。

(2) 小野直司アドバイザーが SCOA に問い合わせを行い、当検診は静岡県野球協会という団体が実施主体であり、静岡市医師会が行なっている野球肘検診とは異なる事業であること、SCOA は関与しておらず、詳細が不明であったことを報告した。

11. ロコモチャレンジ！協会

吉田政史委員長は、次の事項について報告した。

- (1) ロコモチャレンジ！協会より、協会が発行するパンフレットの内容を転載希望する団体に対する転載許諾を行っているが、大学等からの依頼に対しても審査なしで許可するか協会内で議論になっていること、柔整学科を有する大学もあり一律に許可するかシステム委員会に答申を求める問い合わせがあったことを報告した。
- (2) システム委員会では柔整の専門学校には許可せず、柔整学科のある大学は大学のホームページには許可し、柔整学科単体には許可しないことを答申し、それに対し、協会より、学校からの依頼に関しては、従来通り個別審議の上許可するか決定する旨の返答があったことを報告した。

【資料】

(1) 維新代表 藤田文武氏 株式会社 KTAJ

前中孝文アドバイザーが、資料に基づき報告した。

(2) 109 回も整骨院に→実際は 1 回も通わず

相原忠彦アドバイザーが、資料に基づき報告した。

(3) FC 福島整骨院不正請求

相原忠彦アドバイザーが、資料に基づき報告した。

(4) 事故で軽傷の 3 人の施術を偽装し保険金 180 万円をだまし取る

相原忠彦アドバイザーが、資料に基づき報告した。

(5) 「柔道整復師、保険金詐欺の疑いで逮捕 静岡南署」

相原忠彦アドバイザーが、資料に基づき報告した。

(6) 直近 10 年の柔道整復師関係 不正請求、詐欺事件一覧

相原忠彦アドバイザーが、資料に基づき報告した。

(7) 学校法人「平成医療学園」が「科学研究費助成事業」を経営資金に流用した疑い

相原忠彦アドバイザーが、資料に基づき報告した。

(8) 鍼灸柔整新聞

三輪雅彦副委員長は、Q&A『上田がお答えいたします』柔整の「傷病名問題」って何？ の記事において、明らかな慢性疾患を捻挫や打撲として療養費を請求している実態について報告した。

⑩ 令和7年度第2回IT戦略委員会

日 時：令和8年1月13日（火）20：30～21：30

場 所：ウェブ会議

出席者：副理事長 松原三郎

担当理事 照屋 徹、鮫島弘武

委員長 白木隆士

副委員長 黒澤宏行、田中章善

委 員 中村眞二、梅田修二

アドバイザー 宮川一郎、西山 徹

欠席者：アドバイザー 本田 忠、長島公之

（敬称略）

挨拶：

松原三郎副理事長は、冊子「医事紛争事例に学ぶ」の電子化の進捗状況について、本日の委員会で確認したいと挨拶した。

理事会審議付帯事項：

1. 各種アンケートについて

各種アンケートについては、紙媒体から二次元バーコードの読み取りへ変更したところ、回答数が十分に集まらない事例が散見されている。

このため、JCOA ウェブサイト内の「会員の部屋」におけるアンケート関連ページについて、現在実施中のアンケートや過去のアンケート結果などが一目で分かるように整理・修正してはどうかとの提案があった。

本提案を踏まえ、会員アンケートを依頼する際の標準的なマニュアルを作成し、各種委員会に活用することを理事会へ上程することとした。

2. 今後のJCOA ウェブサイトのあり方について

1で示した内容を実現するには、部分的な修正にとどまらず、ウェブサイト全体の構成の見直しが必要となる可能性も考えられる。

そのため、全面的なリニューアルも視野に入れ、今後のJCOA ウェブサイトのあり方の検討について、理事会へ上程することとした。

委員会決議事項：

1. JCOA ウェブサイトへのバナーリンクについて

日本で開催される第46回 SICOT 国際整形外科災害外科学会のパナーリンクの掲載を了承した。

2. 冊子「医事紛争事例に学ぶ」の電子化について

「医事紛争事例に学ぶ」(冊子版)のアーカイブ化については、河村英徳副理事長に詳細な希望事項を確認した上で、早急に業者へ見積もりを依頼することとした。

3. 次回委員会の開催について

次回委員会は、令和8年6月下旬から7月上旬頃に開催することとした。

詳細な日程については、本委員会のメーリングリストを用いて調整する。

委員会報告事項：

1. 令和8年度事業計画について

本委員会として、令和8年度事業計画を提出した。

⑪ 令和7年度第1回学会雑誌編集委員会

資料4-8

⑫ 令和7年度第2回学会雑誌編集委員会

資料9

⑬ 日本臨床整形外科学会近畿ブロック 理事・監事・裁定委員予定者に関して

地区理事立候補者

都道府県名 滋賀県 候補者氏名 由良茂人

都道府県名 兵庫県 候補者氏名 辻本 和雄

都道府県名 大阪府 候補者氏名 神藤佳孝

-一般社団法人日本臨床整形外科学会役員選挙規則-

(選挙権及び被選挙権) 第2条第2項

(以下「被選挙権」という。)は、役員選挙の行われる年(以下「選挙年」という。)の前年10月1日現在の本法人の正会員で、役員選挙の日に原則として満70歳未満の者がこれを有する。

2024 大阪(神藤) 兵庫(辻本) 滋賀(小林)

2026 大阪(神藤) 兵庫(辻本) 滋賀(由良)

今後の予定

2028 大阪 兵庫 京都

2030 大阪 兵庫 京都

2032 大阪 和歌山 奈良

2034 大阪 和歌山 奈良

2036 大阪 兵庫 滋賀

2038 大阪 兵庫 滋賀

2040 大阪 兵庫 京都

2042 大阪 兵庫 京都

監事立候補者

都道府県名 滋賀県 候補者氏名 高橋 真

■監事

1. 令和4・5年度監事

(1) 谷口 正和 先生(中部地区)

(2) 西本 章 先生(中国・四国地区)

2. 令和6・7年度監事

(1) 杉本 禎志 先生(北海道地区)

(2) 橋口 隆 先生(九州地区)

3. 令和8・9年度監事選出予定(監事定員2名の場合)

(1) (東北地区の予定)

(2) (近畿地区の予定)

4. 令和10・11年度監事選出予定(監事定員2名の場合)

(1) (関東地区の予定)

(2) (中部地区の予定)

裁定委員会委員 被推薦者

都道府県名 滋賀県 候補者氏名 山下仁司

裁定委員会（近畿地区）

就任年度	都道府県	氏名	医療機関名
平成26年・27年	大阪府	栗本 一孝	栗本整形外科
平成28年・29年	奈良県	村井 聡	村井整形外科
平成30年・31年	和歌山県	山東 秀樹	医療法人山東整形外科・肛門科医院
令和2年・3年	滋賀県	麻生 伸一	あそうクリニック
令和4年・5年	滋賀県	麻生 伸一	あそうクリニック

⑭ 令和7年度社会保険等検討委員会

資料10

⑮ 第8回 JCOA 災害医療チーム研修会

資料11

⑯ SICOT2026京都参加依頼

資料12

⑰ 全国市民公開講座ポスター

資料13

⑱ 日本整形外科学会令和7年度第6回理事会

【開催日時】令和7年11月20日(木曜日)午後0時00分から午後5時05分まで

【開催場所】東京都文京区本郷2丁目40番8号

日本整形外科学会事務所 4階会議室

【理事総数】 24名

【出席した理事】 24名

理事長 河野博隆

副理事長 斎藤 充 寺門 淳 田尻康人 波呂浩孝

理 事 相澤俊峰 一色奈保 大江隆史 大槻周平

北村拓也 後藤公志 神藤佳孝 高尾正樹

高橋謙治 高橋 淳 原 仁美 平岡弘二

渡辺雅彦

以下の理事はウェブ会議システムにより参加した。

理 事 石川正和 伊藤 浩 小田剛紀 高相晶士

長谷川正裕 山本卓明

【監事総数】 4名

【出席した監事】 4名

監 事 梶谷 充 鮫島弘武 中西一義 七松 優

オブザーバー 4名

100年プロジェクト実行委員会 プロジェクトリーダー 中島康晴

以下のオブザーバーはウェブ会議システムにより参加した。

博報堂グループ 岡 直樹 歌野裕子 松岡洋介

【議事の経過、要領及びその結果】

理事長 河野博隆は、本日の理事会がウェブ会議システムを利用し行う旨を述べ、一堂に会するのと同様に適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認し、定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。なお、河野博隆理事長が途中退席したため、報告・審議事項5及び16から19までについては理事長職務代行第1順位の田尻康人副理事長が議長となり、議事を進行した。

前回の議事録の確認

1. 令和7年度第5回理事会議事録の確認

議長から、資料1に基づき令和7年度第5回理事会議事録の確認が行われた(日本整形

外科学会ホームページに掲載)。

各理事からは、それに対して特段の異議は出なかった。

決議事項

1. 第1号議案 医学教育委員会の設置及び委員委嘱の件

議長は、決議資料1に基づき医学教育委員会の設置及び委員委嘱の件について、説明した。

議長は、医学教育委員会の設置及び委員委嘱の件について原案のとおり承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、医学教育委員会の設置及び委員委嘱の件について全員一致でこれを承認可決した。原 仁美理事を担当理事とした。

2. 第2号議案 令和7年度奨励賞選考結果及び会告案の承認の件

議長は、令和7年度奨励賞選考結果及び会告案について、後藤公志理事及び高相晶士理事に説明を求めた。

後藤公志理事は、議長の求めに応じて、決議資料3及び画面共有資料に基づき令和7年度奨励賞選考結果及び会告案について選考に至った考え方を説明した。

議長は、後藤公志理事の説明の後に原案のとおり次の4名を令和7年度奨励賞受賞者に決定し第99回日本整形外科学会学術総会で発表する会告を承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

(日本整形外科学会ホームページに掲載)

[基礎研究]

・後藤篤史(岐阜大学)

PI3K-Akt signaling regulates Scx-lineage tenocytes and Tppp3-lineage paratenon sheath cells in neonatal tendon regeneration

・長谷川延彦(ユタ大学)

DNA demethylating agents suppress preclinical models of synovial sarcoma

[臨床研究]

・玉井孝司(大阪公立大学)

Open-door cervical laminoplasty using instrumentation of every level versus alternate levels: A multicenter, randomized controlled trial

・山田勝久(北海道大学)

Acellular, bioresorbable, ultra-purified alginate gel implantation for intervertebral disc herniation: Phase 1/2, open-label, non-randomized clinical trials

(以上分野別、五十音順、研究時の所属、敬称略)

3. 第3号議案 外反母趾診療ガイドライン策定委員会委員の交代及び委嘱の件

議長は、外反母趾診療ガイドライン策定委員会委員の交代及び委嘱の件について、相澤俊峰理事に説明を求めた。

相澤俊峰理事は、議長の求めに応じて、決議資料3に基づき外反母趾診療ガイドライン策定委員会委員の交代及び委嘱の件について説明した。

議長は、相澤俊峰理事の説明の後に、外反母趾診療ガイドライン策定委員会委員の交代及び委嘱の件を原案のとおり承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、外反母趾診療ガイドライン策定委員会委員の交代及び委嘱を全員一致でこれを承認可決した。

4. 第4号議案 会員の入会承認の件

議長は、会員の入会承認の件について、神藤佳孝理事に説明を求めた。

神藤佳孝理事は、議長の求めに応じて、決議資料4に基づき会員の入会承認の件について事前審査の結果を説明した。

議長は、神藤佳孝理事の説明の後に、令和7年度第5回理事会以降の正会員入会希望者5名及び研修会員入会希望者70名を承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

報告・審議事項

1. 会員の退会報告

神藤佳孝理事から、資料1に基づき正会員10名及び賛助会員1社の退会が報告された。

2. 代表理事及び業務執行理事の報告

代表理事及び業務執行理事から、職務の執行状況が報告された。

3. 各種委員会等報告

(1) 令和7年度 骨・軟部腫瘍委員会(第3回 10/16)

平岡弘二理事から、資料3-1に基づき報告があった。

(2) 令和7年度国際委員会(第3回 10/17)

山本卓明理事から、資料3-2に基づき報告があった。

・2026年香港フェローの選出結果を画面共有資料に基づき理事会に諮る。

◎理事会で審議した結果、原案のとおり承諾した。

・AAOS旅費支給対象者を理事長に加え2名の旅費支給について理事会に諮る。

◎理事会で審議した結果、旅費の追加支給を承諾した。

・SOFcot 2026 Partner Society 及び AAOS Guest Nation 2027 の返礼について理事会に諮る。

◎理事会で審議した結果、原案のとおり承諾した。

(3) 令和7年度診療ガイドライン委員会(メール審議 10/10-19)

相澤俊峰理事から、資料 3-3 に基づき報告があった。

・腰部脊柱管狭窄症診療ガイドラインの改訂を開始する。

(4) 令和7年度 Q&A 委員会(第5回 10/21)

石川正和理事から、資料 3-4 に基づき報告があった。

(5) 令和7年度広報室ニュース編集委員会(第6回 10/22)

北村拓也理事から、資料 3-5 に基づき報告があった。

(6) 令和7年度骨粗鬆症委員会(第2回 10/28)

後藤公志理事から、資料 3-6 に基づき報告があった。

・2026 年度実施「骨粗鬆症アンケート」について従来の郵送形式からウェブ形式(Google フォーム)へ変更することについて理事会に諮る。

◎理事会で審議した結果、調査を承諾した。個人情報保護の確認及び論文化を踏まえ、学会調査でもあることから倫理委員会の審査を受ける必要があることが確認された。

・「二次性骨折予防のための FLS クリニカルスタンダード」改訂版への学会名掲載について理事会に諮る。

◎理事会で審議した結果、日整会が WG へ参画し積極的に関与していくことを条件に学会名掲載を承諾した。

・大腿骨近位部骨折全国調査・非定型大腿骨骨折症例全国調査の JOANR 統合について現状のシステムでは困難な保存療法症例の登録は断念し、手術療法症例に絞って統合を進める方針について理事会に諮る。

◎理事会で審議した結果、手術療法症例に絞って統合を進める方針を承諾した。

今後、FFN-Japan(日本脆弱性骨折ネットワーク)との調査統合について FFN-Japan と協議していく。

(7) 令和7年度社会保険等委員会(メール審議 10/7-9、11/5-7)

寺門 淳副理事長から、資料 3-7 に基づき報告があった。

・日医疑義解釈委員会から照会のあった Emphasys アセタブラーシステム(ジョンソン・エンド・ジョンソン)の保険適用について承認した。

・医薬品の供給停止承認依頼 7 件不採算による薬価再算定に伴う要望書提出依頼 7 件について検討した。

・不採算による薬価再算定に伴う要望書 3 件について理事会に諮る。

◎理事会で審議した結果、原案のとおり承諾した。

4. 「ステンレス製インプラントの安定供給のための WG」追加メンバーの COI の件
波呂浩孝副理事長から、資料 4(当日画面共有資料)に基づき追加メンバーの COI(利益相反)について問題がないことが報告された。
5. ロコモ チャレンジ!推進協議会(第 175 回 7/23、第 176 回 8/26)
大江隆史理事から、資料 5 に基づき報告された。
6. 「ステンレス製インプラントの安定供給のための WG」(第 1 回 11/5)
神藤佳孝理事から、資料 6 に基づき報告された。
神藤佳孝理事から、メンバーの交代について理事会に諮られた。
理事会で意見を交わした結果、メンバーの交代を承諾した。新メンバーの COI(利益相反)について利益相反小委員会で確認することとした。
7. 特別名誉会員(仮称)の件
議長から、資料 7 に基づき特別名誉会員(仮称)の新設について理事会に諮られた。
理事会で意見を交わした結果、「ノーベル賞、文化勲章又はこれらに準ずる名誉を受けたもの」を対象とする特別名誉会員(仮称)の新設を承諾し、定款及び会員規則を改定することとした。名称は引き続き検討することとした。
8. 日整会表彰規則功労賞候補者基準の改定の件
議長から、資料 8 に基づき日整会表彰規則功労賞候補者基準の改定について理事会に諮られた。
理事会で意見を交わした結果、改定を承諾し、**次回**から適用することとした。
9. 委員会改編案及び今後の進め方の件
議長から、資料 9 に基づき複数の委員会を統合・再編する案について理事会に諮られた。
理事会で意見を交わした結果、委員会改編案が承諾され、令和 8 年度を目途に段階的に実施していくこととした。また、各委員会の所掌業務を明確に規定する役割を、定款等検討委員会が担うことも併せて承諾された。
10. 第 100 回学術総会の日整会推薦シンポジウム・講演(案)
議長から、資料 10 に基づき日整会推薦シンポジウム・講演について理事会に諮られた。
理事会で意見を交わした結果、企画案を承諾した。「学会のあり方 次の 100 年へ」については、執行部に一任することが承認された。

11. 医学会連合 社会部会リトリート推薦の件

議長から、資料 11 に基づき日本医学会連合社会部会リトリート推薦の件について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、候補者についてリトリート開催日程に参加可能か確認のうえ、執行部一任で対応することで承諾した。

12. 第 6 回「整形外科医になろう」セミナー開催概要(案)

原 仁美理事から、資料 12 に基づき第 6 回「整形外科医になろう」セミナー開催概要案について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、概要案を承諾した。

13. 100 年史印刷部数の件

斎藤副理事長から、資料 13 に基づき 100 年史印刷部数の件について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、全会員に対し往復はがきで希望調査を行い、希望者に対してのみ送料も含め無償で冊子を送付することを承諾した。

14. 専門医試験問題の著作権、委員会における課題と今後の取り組みの件

石川正和理事から、資料 14 に基づき専門医試験問題の外部利用に関するガイドライン及び専門医試験委員会委員の著作権が日整会へ帰属することを明記した誓約書(案)について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、原案のとおり承諾した。

石川正和理事から、資料 14 に基づき AI を活用した作問支援システム導入のトライアル案について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、AI 活用の方向性自体は支持されたものの、試験的導入の費用としては提示された見積もり額は高額すぎるとの意見で一致し、再度具体的な導入程度に応じた見積もり案の提示を要請することとした。

15. 「(一社)日本 CST 監理・支援機構」の入社にあたっての照会の件

高橋(謙)理事から、資料 15 に基づき一般社団法人日本 CST 監理・支援機構への入社にあたっての照会の件について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、CST 委員会で対案を作成し、執行部一任で対応を進めることが承諾された。

16. 手術支援ロボットを用いた整形外科手術の合併症実態調査の実施の件

高尾正樹理事から、資料 16 に基づき手術支援ロボットを用いた整形外科手術の合併症

実態調査の実施の件について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、アンケート調査の実施計画を承諾した。調査は、倫理委員会の審査を経て進められる。

17. 日本再生医療学会との共同研究に関する報告

大槻周平理事から、資料 17 に基づき日本再生医療学会との共同研究に関する 3 件について報告された。

18. ドラッグ・ロス調査追加報告(ヒドロキシクロロキン)

神藤佳孝理事から、資料 18 に基づき厚労省から依頼のあったアンケート調査に回答品目としてヒドロキシクロロキン(Hydroxychloroquine)を提出したことが報告された。

19. リウマチ外科医育成助成制度 2025 年度合格者の決定

高橋謙治理事から、資料 19 に基づき審査委員会で 12 名を合格者とし、実費最大 20 万円を補助し、日整会からの補助上限は最大 100 万円であるため総額として不足額はリウマチの外科学会の淡青資金から補充することが報告された。

20. 日整会 100 年プロジェクト実行会議(オブザーバー参加:中島康晴プロジェクトリーダー、岡直樹、歌野裕子)

1) 日整会 100 年プロジェクト記者発表会進捗報告

中島康晴オブザーバーから、資料 20 に基づき記者発表会の進捗について報告された。

2) 日本の歩き方進捗報告

中島康晴オブザーバーから、資料 20 に基づき「日本の歩き方」について報告された。

3) WEB サイト開設のご提案

中島康晴オブザーバーから、資料 20 に基づき一般市民を対象とした新たな PR サイトを制作することについて諮られた。

理事会で意見を交わした結果、見積もり(約 400 万円)及び制作方法(Wix を利用したノーコード制作)が承諾された。

4) ビデオライブラリー

中島康晴オブザーバーから、資料 20 に基づきビデオライブラリーの視聴数について報告された。WG への参加が呼びかけられており、特に脊椎、肩、スポーツ、股関節、膝、足、腫瘍など、各専門領域を網羅した構成を目指し、各理事に新メンバーとして参加を依頼した。

5) SICOT 参加費について

中島康晴オブザーバーから、資料 20 に基づき SICOT2026 参加費について corresponding member となり参加者が一人当たり 115 ユーロの参加費割引を受けられるようにする案について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、日整会が corresponding member となることが承諾された。
参加者の確保に向けて、具体的な対策を検討する。

6) 第 99 回日整会学術集会の参加

中島康晴オブザーバーから、創立 100 年という一連の流れの中で第 99 回日整会学術集会及び SICOT2026 で日整会 100 年の歩みに関する展示物があるべきとして理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、既存のコンテンツを利用して展示することが承諾された。
デザイン案及び制作費用について見積もりを依頼することとした。

21. 医療機器の選定・使用に関する一部報道を受けて

議長から、当日配布資料に基づき医療機器の選定・使用に関する一部報道を受けて会員への注意喚起のための文書をホームページに掲載することについて理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、掲載を承諾した。

以上をもって、令和 7 年度第 6 回理事会の議事日程をすべて終え、議長が午後 5 時 05 分に閉会を宣した。

この議事録は、定款第 36 条の規定に従い、代表理事及び出席監事が記名、押印する。

以 上

令和 7 年 11 月 20 日

公益社団法人日本整形外科学会

議長 理事長 河野博隆 印

監事 梶谷 充 印

監事 鮫島弘武 印

監事 中西一義 印

監事 七松 優 印

⑲ 日本整形外科学会令和 7 年度第 7 回理事会

【開催日時】令和 7 年 12 月 18 日(木曜日)午後 0 時 00 分から午後 3 時 30 分まで

【開催場所】東京都文京区本郷 2 丁目 40 番 8 号

日本整形外科学会事務所 4 階会議室

【理事総数】 24 名

- 【出席した理事】 24名
- 理事長 河野博隆
- 副理事長 斎藤 充 寺門 淳 田尻康人 波呂浩孝
- 理事 相澤俊峰 石川正和 一色奈保 大江隆史
- 北村拓也 後藤公志 神藤佳孝 高尾正樹
- 高橋謙治 高橋 淳 長谷川正裕 原 仁美
- 以下の理事はウェブ会議システムにより参加した。
- 理事 伊藤 浩 大槻周平 小田剛紀 高相晶士
- 平岡弘二 山本卓明 渡辺雅彦
- 【監事総数】 4名
- 【出席した監事】 4名
- 監事 梶谷 充 鮫島弘武 中西一義 七松 優
- オブザーバー 5名
- 100年プロジェクト実行委員会 プロジェクトリーダー 中島康晴

【議事の経過、要領及びその結果】

理事長 河野博隆は、本日の理事会がウェブ会議システムを利用し行う旨を述べ、一堂に会するのと同様に適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認し、定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

前回の議事録の確認

1. 令和7年度第7回理事会議事録の確認

議長から、資料1に基づき令和7年度第6回理事会議事録の確認が行われた(日本整形外科学会ホームページに掲載)。

各理事からは、それに対して特段の異議は出なかった。

決議事項

1. 第1号議案 令和7年度 JOS Best Paper Award 選考結果及び会告の件

議長は、令和7年度 JOS Best Paper Award 選考結果及び会告の件について、波呂浩孝理事に説明を求めた。

波呂浩孝理事は、議長の求めに応じて、令和7年度 JOS Best Paper Award 選考結果及び会告について決議資料1及び当日共有資料に基づき説明した。

議長は、波呂浩孝理事の説明の後に令和7年度 JOS Best Paper Award 受賞論文4篇及び会告を原案のとおり承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

2. 第2号議案 令和7年度専門医書類審査結果承認の件

議長は、令和7年度専門医申請書類審査結果について、渡辺雅彦理事に説明を求めた。

渡辺雅彦理事は、議長の求めに応じて、令和7年度専門医申請書類審査結果について決議資料2に基づき説明した。

議長は、渡辺雅彦理事の説明の後に令和7年度専門医申請書類審査結果47名を原案のとおり受験資格ありとして承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

3. 第3号議案 会員の入会承認の件

議長は、会員の入会承認の件について、神藤佳孝理事に説明を求めた。

神藤佳孝理事は、議長の求めに応じて、決議資料3に基づき会員の入会承認の件について事前審査の結果を説明した。

議長は、神藤佳孝理事の説明の後に、令和7年度第6回理事会以降の正会員入会希望者2名及び研修会員入会希望者66名を承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

報告・審議事項

1. 会員の退会報告

神藤佳孝理事から、資料1に基づき正会員10名の退会が報告された。

2. 鳥巢岳彦名誉会員のご逝去

議長から、資料2に基づき、鳥巢岳彦名誉会員のご逝去が報告された。

3. 代表理事及び業務執行理事の報告

代表理事及び業務執行理事から、職務の執行状況が報告された。

4. 各種委員会等報告

(1) 令和7年度広報・渉外委員会(第3回11/4)

大江隆史理事から、資料4-1に基づき報告があった。

・「勤労者ロコモ」の日本経済新聞への新聞広告、メディウエル社を通じたウェブ広告の啓発を実施する

・日整会ホームページの英語ページの検討をする

(2) 令和7年度社会保険等委員会(第3回11/17)

寺門 淳副理事長から、資料4-2に基づき報告があった。

- ・自家培養軟骨「ジャック®」の変形性膝関節症への保険適応の拡大について検討した。
 - ・医薬品の適応外使用に係る保険診療上の取り扱い要望の制度について、手続きを含めて検討する。
- (3) 令和7年度財務委員会(第1回 11/20)
- 大江隆史理事から、資料4-3に基づき報告があった。
- ・第101回学術総会及び第61回骨・軟部腫瘍学術集会の予算案及びコンベンション会社選定結果を理事会に諮る。
 - ◎理事会で審議した結果、原案のとおり承諾した。
 - ・第43回基礎学術集会予算案について再提出を依頼した。
 - ・学術集会における懇親会費の上限について理事会に諮る。
 - ◎理事会で審議した結果、当面の間、参加想定人数1人当たり5,000円程度を目安とすることを承諾した。ただし、特別な事情がある場合は別途審議することとした。
- (4) 令和7年度学術集会運営委員会(第3回 11/20)
- 斎藤 充副理事長から、資料4-4に基づき各学術集会の進捗状況について報告があった。
- (5) 令和7年度災害対応委員会(第4回 11/25)
- 田尻康人副理事長から、資料4-5に基づき今後の活動について、第31回日本災害医学会総会・学術集会シンポジウム登壇、鳥取対面訓練(2月28日)及び青森県対面訓練(11月14日)について報告があった。
- (6) 令和7年度Q&A委員会(第6回 11/25)
- 石川正和理事から、資料4-6に基づき報告があった。
- ・Q&A改訂作業の進捗として、第一次クロスチェックが完了し、専門医試験の過去問から約3割を刷新する作業が順調であること、来春の初版完成を目指していることが報告された。
- (7) 令和7年度広報室ニュース編集委員会(第7回 11/26)
- 北村拓也理事から、資料3-7に基づき報告があった。
- ・広告収入の減少について理事長から各理事へ協力依頼があり、既存依頼企業リスト、趣意書ひな型を各理事に送付することとした。
 - ・144号からASUNAROで小児整形外科の連載を掲載する。
- (8) 令和7年度学術研究企画委員会(第1回 12/1)
- 山本卓明理事から、資料4-8に基づき報告があった。
- ・令和8年度新規採用プロジェクト研究4課題について理事会に諮る。
 - ◎理事会で審議した結果、原案のとおり承諾した。
 - ・本年度で終了予定の2件及び継続予定11件のプロジェクト研究報告の審査結果を理事会に諮る。

- ◎理事会で審議した結果、審査結果を承諾した。
 - ・来年度の公募から 1 会員につき 1 課題の応募に限ることを会告に記載することとした。
 - ・進行中の研究プロジェクトにおいて、主任研究者の異動に伴う交代(徳島大学)を承認した。
- (9) 令和 7 年度症例レジストリー委員会(メール審議 12/10-12)
 - 斎藤 充副理事長から、資料 4-9 に基づき報告があった。
 - ・骨粗鬆症委員会と連携し、非定型大腿骨骨折の調査を JOANR の二階建て構造で開始する準備が整ったことが報告された。
- (10) 令和 7 年度医学教育委員会(第 1 回 12/12)
 - 原 仁美理事から、資料 4-10 に基づき報告があった。
 - ・日本医学教育学会との協定締結(MOU)について理事会に諮る。
 - ◎理事会で審議した結果、協定締結を承諾した。
 - ・全国 82 大学整形外科主任教授に整形外科医学教育リーダー(仮称)の選出依頼を準備している。
- 5. 「ステンレス製インプラントの安定供給のための WG」交代メンバーの COI の件
 - 波呂浩孝副理事長から、資料 5(当日画面共有資料)に基づき追加メンバーの COI(利益相反)について問題がないことが報告された。
- 6. スイッチ OTC 化医薬品の候補成分に関する評価検討委員会報告(11/21)
 - 寺門 淳副理事長から、資料 6 に基づき厚生労働省の医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議に参加し、セレコキシブ及び S-フルルビプロフェン貼付剤(ロコアテープ)のスイッチ OTC 化について意見を述べたことが報告された。
- 7. ロコモチャレンジ推進協議会(第 179 回 11/26)
 - 大江隆史理事から、資料 7 に基づきロコモ概念の国際的な普及を目指す「国際化 WG」を設置し、特に高齢化が進む東南アジアへの展開を視野に活動を開始することが報告された。
- 8. 運動器の健康を増進させ健康寿命を延伸させる議員連盟総会(12/3)
 - 寺門 淳副理事長から、資料 8 に基づき議員連盟の総会に参加し、日整会としてロコモ対策の推進と令和 8 年度診療報酬改定における運動器リハビリテーション料の引き上げを要望し、その内容が議連の決議として厚生労働大臣に提出されたことが報告された。
- 9. 委員会業務規程案の作成について

伊藤 浩理事から、資料 9 に基づき日本外科学会の規程を参考に委員会業務規程案の作成手順及びスケジュールについて第 11 回理事会(令和 8 年 4 月)の審議を経て令和 8 年度からの施行を目指すこと及び提出期限は令和 8 年 1 月末とすることが報告された。

各委員会の担当理事が中心となり、「設置目的」と「業務内容」を明文化した規程案を作成することとした。ただし、倫理委員会、利益相反委員会については、既に詳細な別規程が存在するため、本件の対象外とした。

10. SaMD/non-SaMD 関連ワーキンググループ設立提案

神藤佳孝理事から、資料 10 に基づき医薬・医療機器評価委員会内に、SaMD (Software as a Medical Device) 及び Non-SaMD に関するワーキンググループの設置することについて理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、ワーキンググループの設置を承諾した。

11. APOA Chapter Delegate 選挙

山本卓明理事から、資料 11 に基づき次期 APOA Chapter Delegate について選挙で選出し新体制 4 名を APOA 本部へ連絡することが報告された。

12. 2026 RJOS 参加・意見交換会開催(男女共同参画委員会)

原 仁美理事から、資料 12 に基づき 2026 RJOS 参加・意見交換会開催について 82 大学主任教授を通じて若手女性医師の参加を募集していることが報告された。

委員会の予算を使った派遣人数や予算の立て付けについては、過去の事例を確認した上で改めて検討している。

13. インプラント抜釘における不具合に関するメーカー各社への調査依頼

神藤佳孝理事から、資料 13 に基づきメーカー各社への調査について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、調査を承諾した。

14. 第 100 回学術総会理事会推薦シンポジウム「学会のあり方(次の 100 年へ)」

議長から、資料 14 に基づきシンポジウム「学会のあり方(次の 100 年へ)」について理事会に報告された。

15. SICOT corresponding member (2026 京都 日整会会員参加費割引)

議長から、資料 15 に基づき SICOT 2026 の日整会会員参加費割引について日整会の要望と SICOT 本部との要望に差異が生じ、開催校を通じて SICOT 本部と再交渉していることが報告された。

16. 広範脊柱管狭窄症の診断基準の学会承認について

議長から、資料 16 に基づき厚生労働省脊柱靭帯骨化症に関する研究班の広範脊柱管狭窄症の診断基準の承認について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、広範脊柱管狭窄症の診断基準を承諾した。

17. 委員会の会議費

議長から、資料 17(当日画面共有資料)に基づき委員会の会議費について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、委員間の適切なコミュニケーションや交流を確保するための会議費としても支出を承諾した。

18. 日本の歩き方 神戸・ポートアイランド 企画・立案・冊子制作契約

議長から、資料 18 に基づき契約について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、契約を承諾した。

19. 日整会 100 年プロジェクト実行会議(オブザーバー参加:中島康晴プロジェクトリーダー)

中島康晴オブザーバーから、資料 19 に基づき日本の歩き方 神戸・ポートアイランド編、PR ウェブサイト、全国市民公開講座ポスター、記者発表会の進捗について報告された。

以上をもって、令和 7 年度第 7 回理事会の議事日程をすべて終え、議長が午後 3 時 30 分に閉会を宣した。

この議事録は、定款第 36 条の規定に従い、代表理事及び出席監事が記名、押印する。

以上

令和 7 年 12 月 18 日

公益社団法人日本整形外科学会

議長 理事長 河野博隆 ㊞

監事 梶谷 充 ㊞

監事 鮫島弘武 ㊞

監事 中西一義 ㊞

監事 七松 優 ㊞

㊫ 日本整形外科学会令和7年度第8回理事会

【開催日時】令和8年1月15日(木曜日)午後0時00分から午後3時30分まで

【開催場所】東京都文京区本郷2丁目40番8号

日本整形外科学会事務所 4階会議室

【理事総数】 24名

【出席した理事】 24名

理事長 河野博隆

副理事長 斎藤 充 寺門 淳 田尻康人 波呂浩孝

理 事 相澤俊峰 石川正和 一色奈保 大江隆史

大槻周平 北村拓也 後藤公志 神藤佳孝

高尾正樹 高橋謙治 高橋 淳 長谷川正裕

原 仁美 平岡弘二 渡辺雅彦

以下の理事はウェブ会議システムにより参加した。

理 事 伊藤 浩 小田剛紀 高相晶士 山本卓明

【監事総数】 4名

【出席した監事】 4名

監 事 梶谷 充 鮫島弘武 中西一義 七松 優

オブザーバー 5名

100年プロジェクト実行委員会 プロジェクトリーダー 中島康晴

【議事の経過、要領及びその結果】

理事長 河野博隆は、本日の理事会がウェブ会議システムを利用し行う旨を述べ、一堂に会すると同等に適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認し、定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

前回の議事録の確認

1. 令和7年度第7回理事会議事録の確認

議長から、資料1に基づき令和7年度第7回理事会議事録の確認が行われた(日本整形外科学会ホームページに掲載)。

各理事からは、それに対して特段の異議は出なかった。

決議事項

1. 第1号議案 2026年定時社員総会開催案内会告承認の件

議長は、2026 年定時社員総会開催案内会告について、決議事項 1 に基づき説明し、原案のとおり承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

2. 第 2 号議案 令和 8 年度日本整形外科学会奨励賞公募会告承認の件

議長は、令和 8 年度日本整形外科学会奨励賞公募会告について、後藤公志理事及び高相晶士理事に説明を求めた。

後藤公志理事は、議長の求めに応じて、令和 8 年度日本整形外科学会奨励賞公募会告について決議資料 1 に基づき説明した。

議長は、後藤公志理事の説明の後に令和 8 年度日本整形外科学会奨励賞公募会告について原案のとおり承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

3. 第 3 号議案 委員委嘱の件(学術用語委員会)

議長は、学術用語委員会の委員委嘱の件について、高相晶士理事に説明を求めた。

高相晶士理事は、議長の求めに応じて、決議資料 3 に基づき学術用語委員会の委員委嘱の件について説明した。

議長は、高相晶士理事の説明の後に、学術用語委員会の委員委嘱の件について承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

4. 第 4 号議案 会員の入会承認の件

議長は、会員の入会承認の件について、神藤佳孝理事に説明を求めた。

神藤佳孝理事は、議長の求めに応じて、決議資料 4 に基づき会員の入会承認の件について事前審査の結果を説明した。

議長は、神藤佳孝理事の説明の後に、令和 7 年度第 7 回理事会以降の正会員入会希望者 1 名及び研修会員入会希望者 45 名を承認されたい旨を述べ、議場に諮った。

各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

報告・審議事項

1. 会員の退会報告

神藤佳孝理事から、資料 1 に基づき正会員 10 名の退会が報告された。

2. 代表理事及び業務執行理事の報告

代表理事及び業務執行理事から、職務の執行状況が報告された。

3. 各種委員会等報告

(1) 令和7年度学術用語委員会(第3回 12/15)

高相晶士理事から、資料3-1に基づき報告があった。

- ・関節可動域表示ならびに測定法の検討準備および用語について検討を行っている。
- ・アプリ版用語集の販売継続の是非(ウェブ公開への移行検討)について意見があり、次回の委員会で議論することとなった。

(2) 令和7年度広報室ニュース編集委員会(第8回 12/17)

北村拓也理事から、資料3-2に基づき報告があった。

- ・144号の割り付け・進行状況の確認及び145号の割り付けの検討を行った。
- ・145号からの送料値上げについて発送委託先から予告され、値上げ分がわかり次第、見積り等を共有することとした。

(3) 令和7年度専門医・専攻医管理委員会(第4回 12/22)

渡辺雅彦理事から、資料3-3に基づき報告があった。

- ・専門医資格更新における「専門医共通必修講習 B」の対応について理事会に諮る。
- ◎理事会で審議した結果、専門医共通必修講習 B「多様な地域」の解釈及び会告による周知について承諾した。
- ・カリキュラム制研修において統括責任者の関与についての文言の追加及び「有効な研修期間」を「受験申請年の3月31日から遡って10年間」に変更することについて理事会に諮る。
- ◎理事会で審議した結果、原案のとおり承諾した。
- ・専門医試験受験申請を現在の11月から研修修了後の12月とするため、試験時期を従来の1月から2月に変更することが専門医試験委員会に提案された。
- ・令和8(2026)年度研修開始の専攻医からJOANR登録症例のみを専門医申請に有効とする方針が報告された。

(4) 令和7年度国際委員会(メール審議 12/16、12/24)

山本卓明理事から、資料3-4に基づき各学術集会の進捗状況について報告があった。

- ・RCOST(タイ)からのフェローシップ打診について理事会に諮る。
- ◎理事会で審議した結果、原案のとおり承諾した。
- ・VOA(ベトナム)からのフェローシップ打診について理事会に諮る。
- ◎理事会で審議した結果、原案のとおり承諾した。
- ・RCOST(タイ)及びVOA(ベトナム)と同様の依頼について今後は国際委員会で判断することについて理事会に諮る。
- ◎理事会で審議した結果、国際委員会の判断とすることで承諾した。

- (5) 令和7年度財務委員会(メール審議 12/24-29)
大江隆史理事から、資料4-3に基づき報告があった。
・第43回基礎学術集会の予算案及びコンベンション会社選定並びに各学術集会の修正予算案について理事会に諮る。
◎理事会で審議した結果、原案のとおり承諾した。
- (6) 令和7年度社会保険等委員会(メール審議 1/7-9)
寺門 淳理事から、資料3-6に基づき報告があった。
・医薬品の供給停止承認依頼4件について対応した。
- (7) 令和7年度医学教育委員会(第2回 1/9)
原 仁美理事から、資料3-7に基づき報告があった。
・日本医学教育学会との協定締結(MOU)について理事会に諮る。
◎理事会で審議した結果、協定締結を承諾した。
・82 大学整形外科教室の主任教授へ医学教育の実態調査等に協力いただける「整形外科医学教育サーベイヤー候補」の推薦依頼を送付することについて理事会に諮る。
◎理事会で審議した結果、原案のとおり承諾した。
4. ロコモ チャレンジ!推進協議会(第180回 12/22)
大江隆史理事から、資料4に基づき報告された。
5. SICOT2026(京都)支援金の拠出について
議長から、資料5に基づき SICOT2026(京都)支援金の拠出について理事会に諮られた。
理事会で意見を交わした結果、日整会100年プロジェクトの一環として、SICOT2026の円滑な運営を支援するため、500万円程度の支援金(残余金は返金)を拠出することを承諾した。
さらに日整会100年プロジェクトの一環として斎藤 充副理事長から、第100回学術総会開催時の記念式典(祝賀会、晩餐会含む)に100年史祝辞を依頼したイギリス、ドイツ、タイ、台湾を招待することが報告された。
6. 新設委員会の位置/令和7年度委員会報告
議長から、資料6に基づき委員会報告の新設委員会(医学教育委員会)の掲載位置について将来計画委員会内に加えることが報告された。
7. 会費未納者の状況
議長及び谷 佑次事務局長から、資料7に基づき会費未納者の状況について報告され

た。

約 4,000 名の未納者に対し、デジタル手続きが困難な会員へ今回に限り振替用紙を郵送することとした。今後は原則として JOINTS(ウェブ)での手続きを進める方針が確認された。

8. 中医協・骨密度測定の算定間隔に関する要望書

寺門 淳副理事長から、資料 8 に基づき中央社会保険医療協議会に骨密度測定の算定間隔に関する要望書を提出したことが報告された。

9. 凍結療法機器 Visual-ICE の適応拡大の保険適用(令和 8 年 3 月 1 日収載)の件

寺門 淳副理事長から、資料 9 に基づき凍結療法機器 Visual-ICE の適応拡大の保険適用について中央社会保険医療協議会で承認されたことが報告された。

10. SaMD/non-SaMD 関連ワーキンググループのメンバーについて(医薬品・医療機器評価委員会)

神藤佳孝理事から、資料 10 に基づき医薬品・医療機器評価委員会内に、SaMD(Software as a Medical Device)及び Non-SaMD に関するワーキンググループのメンバーについて理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、ワーキンググループのメンバーを承諾した。

11. 2026 RJOS 視察にかかわる旅費等の助成について(男女共同参画委員会)

原 仁美理事から、資料 11 に基づき 2026 RJOS 視察にかかわる委員会メンバー 4 名による視察旅費及び意見交換会費用の助成について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、助成を承諾した。

12. 令和 7 年度整形外科 CST レビュー(CST 委員会)

高橋謙治理事から、資料 12 に基づき令和 7 年度整形外科 CST レビューについて 2025 年度は 29 大学、132 件をレビュー、承認率 64%だったことが報告された。

13. CST 新法人について(CST 委員会)

高橋謙治理事から、資料 13 に基づき一般社団法人日本 CST 監理・支援機構の設立に関する経過について報告された。

14. 全国骨・軟部腫瘍登録を用いた研究の実施について(骨・軟部腫瘍委員会)

平岡弘二理事から、資料 14 に基づき全国骨・軟部腫瘍登録を用いた研究 1 件の実施について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、実施を承諾した。

15. 留学動向調査研究(国際委員会)

山本卓明理事から、資料 15 に基づき留学動向調査研究について理事会に諮られた。
理事会で意見を交わした結果、留学動向調査研究を承諾した。承認後に倫理委員会に申請することとした。

16. 第 8 回組織移植アンケート及び第 4 回再生医療実態調査アンケートについて(移植・再生医療委員会)

大槻周平理事から、資料 16 に基づき第 8 回組織移植アンケート及び第 4 回再生医療実態調査アンケートについて理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、第 8 回組織移植アンケート及び第 4 回再生医療実態調査アンケートを承諾した。

17. 日本再生医療学会との臨床共同研究の進捗報告、自家培養軟骨「ジャック」適正使用指針策定及び保険収載の報告(移植・再生医療委員会)

大槻周平理事から、資料 17 に基づき日本再生医療学会との臨床共同研究の進捗並びに自家培養軟骨「ジャック」適正使用指針策定及び保険収載について報告された。

18. 日整会 100 年プロジェクト実行会議(オブザーバー参加:中島康晴プロジェクトリーダー)

(1) 研究・留学助成

中島康晴オブザーバーから、資料 18 に基づき日整会 100 年プロジェクトの一環として、研究・留学助成事業について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、研究・留学助成事業について承諾した。具体的な選考基準については学術研究企画委員会で検討することとした。

(2) 日整会 100 年のあゆみ展示:第 99 回総会、SICOT2026、第 100 回総会

中島康晴オブザーバーから、資料 18 に基づき日整会 100 年のあゆみ展示を作成し、第 99 回日整会学術総会、SICOT2026 及び第 100 回日整会学術総会で展示することが報告された。製作費用については見積りを依頼することとした。

(3) 市民公開講座事業:ポスター送付、ウェブサイトの進捗

中島康晴オブザーバーから、資料 18 に基づき市民公開講座ポスターの送付及びウェブサイトの進捗について報告された。

(4) 「日本の歩き方神戸ポートアイランド版」とその後の計画

中島康晴オブザーバーから、資料 18 に基づき日本の歩き方「神戸・ポートアイランド版」とその後の計画について理事会に諮られた。

理事会で意見を交わした結果、「神戸・ポートアイランド」版を 8,000 部制作する。コストと労力のバランスを考慮し、SICOT 英語版と第 100 回総会分の計 3 回制作に集約するこ

とが承諾された。日本の歩き方の原稿作成時に発生した未掲載コラムの一部は Web サイトに掲載することとし、その掲載費用について承諾した。

以上をもって、令和7年度第8回理事会の議事日程をすべて終え、議長が午後3時30分に閉会を宣した。

この議事録は、定款第36条の規定に従い、代表理事及び出席監事が記名、押印する。

以上

令和8年1月15日

公益社団法人日本整形外科学会

議長 理事長 河野博隆 ㊟

監事 梶谷充 ㊟

監事 鮫島弘武 ㊟

監事 中西一義 ㊟

監事 七松優 ㊟

㉑ 骨塩定量検査の算定要件の見直し

資料14-19

㉒ 末梢神経ラジオ波焼灼療法、対外衝撃波疼痛治療術

資料20-22

㉓ 令和7年度第3回学校保健委員会

日時：令和8年3月8日（日）11:00~13:00

場所：JCOA 会議室

出席者：副理事長 奥村栄次郎

担当理事 北村拓也、金淵隆人、谷口正和

委員 森山正敏、貴島浩二、永易大典、梅田修二、満田基温、青木良仁

アドバイザー 新井貞男、山下仁司

欠席：若原和彦、西須孝

理事会審議付帯事項：

特になし。

委員会決議事項：

特になし。

委員会報告事項：

理事長諮問事項について検討した

1. 学校の運動器検診に対する JCOA としての対応の検討

機器を用いた側弯症検診は近年の検診における脱衣問題への対策として期待される。主な機器として、安価な「スコリオデバイス」や、レンタルも可能な「スコリオマップ」が挙げられた。これらの機器導入には、学校医検診の負担軽減やプライバシー保護といったメリットが期待される一方で、複数の重大な課題が存在することも指摘された。

1) 精度と再現性の問題: 機器の測定精度は 100%ではなく、特に子どもは検査中に動いてしまうため、同じ子を複数回測定しても同じ結果が出ないことがある。

2) 偽陰性のリスク: 最も懸念されるのは、異常があるにもかかわらず「異常なし」と判定される偽陰性のケースである。これにより発見が遅れるリスクを十分に考慮する必要がある。

3) 責任の所在: 機器はあくまで医師の診断を補助するツールであり、検査結果の最終的な判断と責任は医師が負うという原則を明確にしなければならない。

4) 導入・運用コスト: 機器本体が安価でも、運用には人件費や精度管理のコストがかかる。レンタルという選択肢もあるが、費用対効果を慎重に評価する必要がある。

結論として、機器導入は脱衣問題の解決策となりうるが、その限界とリスクを十分に周知し、「医師による最終診断が必須である」という位置づけを徹底することが極めて重要であると確認された。また、機器に頼るだけでなく、検診の意義を児童生徒や保護者に教育していくアプローチも並行して進めるべきとの意見も出された。

2. 学校の運動器検診に対する JCOA としての対応の検討

運動器検診の有効性検証については、JCOA が 10 年間にわたり継続しているアンケート調査のデータが極めて重要であることが再確認された。文科省の「学校における持続可能な保健管理の在り方に関する調査検討会」で運動器検診の意義が問われた際、このアンケート結果に基づき「しゃがみ込みができない児童生徒から股関節形成不全などの疾患が発見されている」といった具体的な数値を提示したことで、検診の必要性が認められ、廃止を免れた経緯が共有された。今後も地道なデータ収集を継続し、検診の有効性を客観的な根拠をもって示していくことが不可欠であるとの認識で一致した。

3. 学童期に発症する外傷及び障害の調査

外傷・障害調査に関しては、最も大きなデータソースであるスポーツ振興センターの統計が、正確な実態把握を困難にしている問題が指摘された。その理由は、①子ども医療費助成制度などを利用する方が有利なため、そもそもセンターへの申請がなされないケースが増えていること、②接骨院からの報告も統計に含まれており、打撲捻挫などの診断が過大に計上されている可能性があること、が挙げられた。レセプトに基づく厚生労働省のデータの方がより正確である可能性が示唆された。

4. スクールトレーナー制度に対する対策の検討

理学療法士（PT）などが学校の部活動で指導を行う「スクールトレーナー」制度について、その背景と潜在的な問題点が議論された。この制度は、ある財団が資金確保のために始めた「資格ビジネス」の側面があり、JCOA（日本臨床整形外科学会）が反対しているにもかかわらず、既に1,000人規模の認定者が生まれている現状が報告された。

この制度に対して、以下の多岐にわたる懸念が表明された。

- 1) 医師の監督責任: PTが単独で活動した場合でも、万が一見逃しなどが発生した際の最終的な法的責任は学校医が負うことになる。
- 2) PTの開業権要求への布石: このような活動実績を積み重ねることが、将来的なPTの開業権要求に繋がる可能性がある。
- 3) 予算化のリスク: 当初は無償やボランティアで活動を始め、実績を作った後に公的な予算がつく「スクールカウンセラー」と同様の道を辿る可能性がある。これは、教員の働き方改革に伴う部活動の外部委託の流れとも合致する。
- 4) 柔道整復師の参入: 制度が拡大すれば、柔道整復師などが学校現場に入り込む足がかりとなりかねない。
- 5) 対策としてJCOAが推進する「学校スポーツ相談員」制度も存在するが、名称がスポーツ活動に限定される印象を与えるなどの課題も指摘された。医師の監督下での活動を徹底させるとともに、医師会として明確な方針を持って対応していく必要性が確認された。

5. 地方自治体における保健調査票のアプリ等を用いた回答様式の検討

大田区で、家庭調査票にQRコードを印刷し、詳細な運動器検診の調査票へ誘導した事例が紹介された。この取り組みにより、集計業務の効率化や二次検診対象者の増加が見られた。一方で、全国的な普及には大きな障壁があることが浮き彫りになった。

主な課題として、以下の点が挙げられた。

- 1) 現場の反発: 学校の教員や特に養護教諭から、新たなシステムの導入が業務負担の増加に繋がるとして強い反発がある。
- 2) 承認プロセスの壁: 各市区町村の教育委員会は独立性が高く、県レベルの教育委員会が推奨しても、最終的な導入決定権を持つ各地区教育委員会の承認を得ることが難しい。

3) 予算とセキュリティの問題: 低コストでの導入を提案しても、役所側から高いセキュリティ基準を求められ、結果的に莫大な見積もりとなり予算が通らないという悪循環に陥りやすい。

結論として、現場からのボトムアップでの普及は「横並び」意識の強さから困難であり、国が主導して統一アプリを開発・提供しない限り、広範な導入は難しいとの見解で一致した。

【各種報告事項】

【協議事項】

次回ブロック会議案内

11月7日(土) 京都府

次々回ブロック会議日程について

滋賀県